



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 交通ビル3階
TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
Eメール kenpyo@cy.tnc.ne.jp

あなたの一票で 政治を変えよう!

5月26日投票 静岡県知事選挙

5月9日公示26日投票で静岡県知事選挙が実施されます。今回の選挙は、川勝平太知事の辞任により急遽執行される事となりました。

静岡県評では今回の選挙で具体的候補者に対する推薦や支持を表明しません。しかし、「リニア新幹線反対」「浜岡原発再稼働反対」「最低賃金全国一律1500円」などをはじめとした労働者の切実な要求を実現できる県政を実現するために、どの候補が適切かを見極め、

大軍拡・大增税ではなく 暮らしと社会福祉の充実を

自民党政治ノ一・大幅賃上げを

5・1メーデーに 県内900人が参加

「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう!」と第95回静岡県メーデーが5月1日、県内8カ所で開催されました。当日は小雨の中、全県で約900人が参加。集会後、デモ行進し、物価高を上回る大幅賃上げや労働基準法改悪阻止、被災者本位の復興、大軍拡反対などを訴えました。



プラカードコンテスト福保労 (静岡)

静岡市内で開催された静岡県中央メーデーで、あいさつに立った菊池仁実行委員長(県評議長)は、「長く続いたコロナ禍、あいつぐ自然災害などにより地域経済は疲弊し、そこに物価高騰が追い打ちをかけている。春闘では何年かぶりの賃上げを勝ち取ったが、長く続く日本の低賃金構造を抜本的に転換するには至ってお

らず、実質賃金は下がり続けており、「賃金が上がり続ける国から上がる国への転換」が求められている。そのため、貧困と格差の広がりを是正し公正な社会に転換していくために、ため込んだ内部留保は、下請け孫請けの中小零細企業への支援や取引価格の適正化生活ができないほどに下げられてしまった労働者の賃上げに使うべき。私たちは、岸田政権の暴挙を許さず、「大軍拡・大增税ではなく、暮らしと社会福祉の充実を」との声を、ここ静岡県からさらに全国津々浦々から上げていき、平和とくらしが守られる新しい政治への転換をはかる共同の運動を進めていこう」と訴えました。連帯のあいさつに、静岡



メーデー参加者による行進 (浜松)

県商工団体連合会・市民連合しずおか・静岡県労働組合共闘会議・日本共産党・社会民主党静岡県連合の代表が立ち、続いて袴田巖さんの無実を訴え奮闘されている、姉の秀子さんから再審勝利に向けた訴えがありました。

浜松では、浜松城公園中央芝生広場で、西部地区メーデー集会が開催され、約200人が集まりました。交流の広場では、新婦人雄踏支部の澤根さんによる講演「安倍派裏金男7人衆」、トイイツ戦線のお二人による歌「爆買いオスプレイ」「政倫審」が披露されました。

ライドシェアの合法化は許さない

「白タクが合法化されればタクシーやバスなど公共交通機関が衰退し、国民の移動する権利が奪われる。絶対阻止を」と訴えました。静岡市の宣伝行動では、県評議長も参加してライドシェア阻止を訴えました。

ライドシェアは、車も持たず、運転者も雇わない企業が、利用者とドライバーの仲介をするだけで、運行と雇用に対する責任を負わずに利益だけをあげるビジネスです。一方で、タクシ

海外の労働運動学び連帯

アメリカ・レイバーノーツ大会に参加

アメリカ・シカゴで開催された「レイバーノーツ大会」(19日から21日)に全労連から39人が参加。県評からも静岡自治労連の松本さんが参加しました。レイバーノーツは米国で「労働運動に運動を取り戻す」をスローガンに、1979年から活動を続けている組織で、労働者教育、出版、活動家育成などを



大会参加者の皆さん

行なっています。米国労働運動高揚の最前線から組織化や組合結成の教訓を直接学ぶために代表団は派遣されました。レイバーノーツ大会には4千人の労働者が国際連帯のために集いました。シカゴ市長が歓迎のあいさつに訪れるなど、会場は熱気に包まれました。代表団も3日間いくつものワークショップに参加し、地域と連帯したアメリカ各地の労働組合のとりくみ、仲間を増やす戦略と行動など多くを学びました。大会に参加した静岡市労連松本さんからは、

「レイバーノーツ大会において、多くのワークショップや会議に参加しましたが、特にストライキに関連するワークショップに多く参加しました。その中で「対話」の二つの言葉をよく耳にしました。ユーザー側との対立のみを考えていましたが、アメリカの労働組合はコミュニティをとっても大事にし、そのコミュニティの賛同を得るために時間をかけて対話をしていました。この実践の方法はとても参考になると思いました」との感想がありました。



宣伝する菊池県評議長

「白タクが合法化されればタクシーやバスなど公共交通機関が衰退し、国民の移動する権利が奪われる。絶対阻止を」と訴えました。静岡市の宣伝行動では、県評議長も参加してライドシェア阻止を訴えました。

ライドシェアは、車も持たず、運転者も雇わない企業が、利用者とドライバーの仲介をするだけで、運行と雇用に対する責任を負わずに利益だけをあげるビジネスです。一方で、タクシ

具体的なライドシェアの危険性は次のとおりです。
1 運転者は二種免許を持っていない一般ドライバーで、資格のない運転者が他人を輸送することになります。
2 タクシーは、過労運転防止のため運転者の拘束時間や休息期間が規制されていて、乗務前には点呼、アルコールチェックが義務付けられています。兼業・アルバイトも禁止です。ライドシェアの運転者は、誰もチェックする人がおらず、兼業で運転するケースが予想されます。
3 タクシーの車両は、自家用車より厳し

すべての刑事事件の 可視化で冤罪を防ごう

5・3憲法を考える市民の集い

5月3日（憲法記念日）、静岡市のもくせい会館で「憲法を考える市民の集い」が開催されました。昨今の情勢を反映してか、はじめ140席用意されていた会場が追加でも立ち見の人が出るほどでした。

第1部は篠笛の演奏に合わせた憲法劇。お神楽のような雰囲気の中に、戦争をする国へと歩み続ける日本政治の恐ろしさが胸に迫る舞台でした。

第2部のはじめに、主催者を代表して菊池県評議長が挨拶に立ち、政府が進めようとしている地方自治法改正案について、緊急事態条項の先取りだと批判しました。

メイン企画は袴田事件弁護団事務局長の小川秀世弁護士の話。

はじめからムリなストーリーを描き、袴田さんを犯人に仕立てるために証拠のねつ造まで行った警察、再審裁判でもなお有罪を主張し死刑を求刑しようとする検察の犯罪性を、具体的な証拠を示しながらわかりやすく話してくれました。そして、憲法では戦前の深い反省から刑事事件の逮捕から裁判までの手続きについて細かく規定されており、それをないがしろにすることは明らかな憲法違反である

ることや、今回のような警察・検察の犯罪を防ぐためにもすべての刑事事件の可視化（録画や録音）が必要だと訴えました。



講演する小川弁護士

大王パッケージ（大王製紙子会社）をセクハラで提訴

4月11日、名古屋地方裁判所豊橋支部で大王製紙子会社「大王パッケージ」の女性従業員が上司2名からセクハラ、パワハラを受けたと提訴し第1回裁判がありました。この裁判には県評から堀内副議長が傍聴しました、多くの支援の間が集まり法廷には入りきれませんでした。

裁判が始まる前、豊橋駅前でチラシ配布、宣伝を行いました。駅前を通る人たちも注目し多くの人がチラシを受け取っていました。意見陳述した被害を受けたAさんは、部長から受けたセクハラ行為を具体的に陳述し「突然私の膝の上に乗ってきた。お腹や腕、脇のあたりを指で突っついてきた。後ろから抱きつく行為や、両手を広げて抱きつくこととした。部長に逆らったら会社にいらなくなる」と思い我慢するしかないと考えた。悔しく、恥ずかし



篠笛に合わせて踊る舞踊家

たセクハラ行為を具体的に陳述し「突然私の膝の上に乗ってきた。お腹や腕、脇のあたりを指で突っついてきた。後ろから抱きつく行為や、両手を広げて抱きつくこととした。部長に逆らったら会社にいらなくなる」と思い我慢するしかないと考えた。悔しく、恥ずかし



豊橋駅頭での宣伝行動

非正規女性労働者の組織化

静岡県労働研究所 春のシンポジウム

4月21日、春のシンポジウムが開催されました。最初に現場からの報告として、増田敦子氏（県評女性部長）が「持続

可能な働き方アンケートから」、次に小澤恵氏（ローカルユニオン静岡）が「シングルマザーの働き方」ということで報告しました。その後、基調報告として笹原恵氏（静岡大学教授）が「非正規女性労働者の労働組合への組織化」と題して報告しました。

2023年の世界経済フォーラムが発表したジェンダーギャップ指数で、日本は146カ国中12



報告する笹原氏

5位でした。特に政治と経済の分野で悪くなっています。

1982年から2022年の40年間で、女性の20代後半の労働力率は、51%から88%に上昇しています。2022年において、年収300万円以下は、女性73%、男性50%です。労働組合の組織率は2004年19%から2024年16%と低下しています。パート組織率は2005年3%から2023年8.4%と上昇しています。

職場において非正規職員の占める比率が高くなる中で、非正規職員の基幹化・戦力化が進み、その待遇は正規職員（組合員）の待遇を押し下げることにあります。職場に非正規労働者が増え、従業員過半数代表の立場と集団的発言メカニズムが危機に直面すると、労働組合は非正規労働者の組織化に取り組むようになります。女性労働者の就業継続、非正規女性労働者の待遇改善及び労働組合への参加が課題です。



一コマ漫画



オンライン署名は上記のQRコードからお願いします。

この間、化学一般東海大王製紙パッケージ労働組合は会社と交渉を重ねてきました。会社は、団体交渉で一定は認め、本人に謝罪文を出す約束したが放置しました。また「組合の調査は不十分ではない」「不適切だがハラスメントではない」と結論付けています。上司の立場を利用し、Aさんに不快な思いをさせているからには「セクシヤルハラスメント」行為に当然ではあります。裁判終了後、報告集会を開き原告のAさんは「セクハラ・パワハラのない職場にするため頑張ります」と決意を述べました。公正な調査対応を求めるオンライン署名にご協力お願いします。

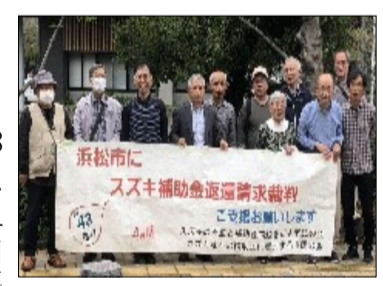
職場の安全衛生を実現するために 静岡県安全健康センター No. 102

深刻なPFAS（ピーファス）汚染のです。日本は飲み水の目標値をPFOSとPFOA合わせて1Lあたり50ナノグラムとしています。これは上記の規制値の6.25倍にあたる数値です。

PFAS（ピーファス）汚染をPFOSとPFOAとPFONAが動物実験で肝臓の機能に影響を及ぼすこと、人にはコレステロール値の上昇、発がん、免疫系との関連が報告されているとされていますが、どの程度の量で影響が出るかが確定的でないとして規制を先送りしています。国際条約に基づきPFOSとPFOAについて製造輸入等が禁止されているにもかかわらず安全であるかのようになり、今後規制の目標値を「検討する」などというにとどまっています。

OAに関するQ&A集を作成、配布しています。この中でPFOSとPFOAが動物実験で肝臓の機能に影響を及ぼすこと、人にはコレステロール値の上昇、発がん、免疫系との関連が報告されているとされていますが、どの程度の量で影響が出るかが確定的でないとして規制を先送りしています。国際条約に基づきPFOSとPFOAについて製造輸入等が禁止されているにもかかわらず安全であるかのようになり、今後規制の目標値を「検討する」などというにとどまっています。

裁判所が証人尋問の 必要性を認め2名を指定 スズキ補助金返還請求裁判



裁判傍聴の皆さん

4月18日、静岡地方裁判所で第16回スズキ補助金返還請求裁判が行われました。原告側は20人が傍聴しました。今回から裁判長が変更されました。新裁判長は証人尋問の証人として浜松市役所職員1名とスズキ（株）の幹部1名を指定しました。原告が申請した当時の浜松市長やスズキ（株）現社長は証人として認めませんでした。原告証人の2人は、陳述が可能となりました。

【報告集会の弁護団の発言から】
①市側の証人の専業部参加は、スズキのコンプライアンス違反で国交省の見解をひいて「補助金申請の5カ月前の平成31年1月時点で完全に抑止されている」とし、コンプライアンス条項は適合性がある」と議会で述べた方です。
②法令違反で2回も国交省から勧告を受けて「経営層の認識不足、経営層の体質」とされたスズキの法令違反の問題が、抑止されているというのは考えられないと



静岡県内は5月19日から31日まで みんなで行進に参加しよう